

ねらい

図書館には、約40万冊の図書や雑誌、昭和15年頃から数十年分の新聞や、四日市市をはじめとする三重県に関する資料が約2万冊あります。

図書館と学校が連携して、これらの多様な資料を有効に活用することにより、子どもたちの読書活動や、学校での授業の充実につながると考えます。

図書館では、「読書の楽しさ・調べる楽しさ」を体験することによって、各校の読書や学習活動を充実させることができるよう、学校と連携・協力しながら、出前講座等による支援を行っています。



現状と課題

○ 児童室

児童室では、学校図書館いきいき推進委員会と連携して、読み聞かせ用図書の選定や学校での読書活動について協力をしています。また、物流ネットワークの一環として、調べ学習支援のための図書の貸出や、図書館の本を利用した、学校貸出専用図書「なのはな文庫」による読書活動の支援もしています。



なのはな文庫の利用状況

年度	小学校 (回)	中学校 (回)	計(冊)
20年度	15	6	1115
21年度	22	3	1258
22年度	13	2	791

保護者や、学校などで活動する図書ボランティアへも、勉強会に出前講座として参加するなどの形で支援をしています。

○ 自動車文庫（移動図書館）

図書館では、平成20年度から学校図書館いきいき推進検討委員会と連携して、出前講座として、自動車文庫を小学校へ派遣しています。平成22年度は県小学校を訪問しました。

第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための基本

自動車文庫は市内93ヶ所を巡回しており、おもな利用者は、図書館が遠い地域の人や、図書館に来ることが難しいお年寄り、小さな子どものいる人たちです。

子どもたちは、自動車文庫についての説明を受けたあと、実際に車内を見学したり、本を手にとったりして体験します。また、見学のあとは図書館に関するクイズや本の読み聞かせをしています。



※自動車文庫には約3,200冊の本が積み込んであります。

○ 点字・録音資料室

点字・録音資料室では、視覚障害を持つ児童・生徒の就学支援として「点字教科書」の作成に協力するとともに、点字・視覚障害・録音図書等への正しい理解を深めるため、啓発資料を作成して、利用者に配付しています。また、市内の小学校に在学する児童を対象に「夏休み子ども点字教室」を開催したり、依頼を受けた学校に職員を講師として派遣したりして、啓発に努めています。



今後の方向性

- 調べ学習の支援は、すべての市民への図書館サービスと学校図書館の支援の両立を図りながら、図書館の豊富な資料を授業に生かしていく方法を探っていきます。
- 多様な資料を所蔵する図書館の機能を、子どもたちが理解して、図書館を使いこなす能力を身につけられるよう、内容を充実させていきます。
- 今後は、なのはな文庫を一層充実させ、学校の学習や読書活動の支援を進めていきます。